

特別会計

〈町立診療所会計〉

(無量谷委員) 夜勤は一ヶ月間で、どの位の頻度で交替しているのか。

(宮古事務長) 昨年暮れに看護師が辞めて、ずっと2名欠員だったため、この時は8〜9回夜勤だった。今年に入って、7月1名、9月に臨時看護師2名増えた。今のところ7回くらいの夜勤になっている。

(鷺見委員) 不採算病院の国の補助金はどうなっているのか。

(宮古事務長) 診療所についても普通交付税と特別交付税で交付税算入されている。経過措置の5年間は1億3千6百万円。

(鷺見委員) 5年後はどうなるのか。

(飯田会計課長) 3千2百万円程減ってくるのかと思う。

(鷺見委員) 一診療所につきどれくらいお金が出るのか。

(飯田会計課長) 一ヶ所7百10万円。幌延町立診療所、歯科診療所、問寒別の3ヶ

所で2千百30万円。

〈国民健康保険会計〉

(斉賀委員) 療養給付費は、一件当りどのくらいか。前年度と比べてどうか。

(鈴木町民課長) 一人当りの給付費は22万5千9百19円。

(斉賀委員) 滞納繰越分があるが、どういう対策を取っているのか。収納率を上げようとしてどう対処しているのか。

(伊藤主査) 収納対策としては、督促状の送付や電話、文書、個別訪問による催告、納税相談などを強化している。

〈後期高齢者医療会計〉

(鷺見委員) 北海道広域連合と一つなので、幌延町の給付金も急激に上がっているが、要因は何か。

(鈴木町民課長) 平成24年度に値上げになったため。人口規模、それと療養給付については給付実績等が反映されている。必ずしも高額の負担を求められているとは思わない。

(佐々木委員) 国が新しい介護認定基準を作っている。入所施設を利用するには、介護度3以上でなければ認められないように決定している。幌延町の場合はどうか。

(鈴木町民課長) 介護保険制度の見直しが提言されている。わが町には、3に満たない入所者がいるのが実態だ。

(佐々木委員) 町独自で入所基準を作ることできるか。

(鈴木町民課長) 国の規準を無視して決定することは困難だ。入所できなくなるかと考えている。

社会福祉法人 幌延福祉会 との懇談会

10月4日役場会議室において社会福祉法人幌延福祉会理事長以下役員との懇談会を行なった。

議会から鷺見議員会長、野々村議長が挨拶、幌延福祉会から山本理事長の挨拶があり、続いて小西理事より、こざくら荘の現況報告と今後の課題、北星園の現況などの説明があり、議会との意見交換が行われた。

特にこざくら荘の運営に関して、現状の40名規模での施設運営では平成26年度では1千万円程度の赤字が出る旨の報告に、議員からの意見が集中し、今後、幌延町福祉計画の中で、その対応策が審議されていく。

地方の市町村での介護保険料の在り方が議論を呼んでいるときでもあり、



参加議員からもかなり厳しい意見が出ていた。北星園も障害者支援施設として昭和49年9月に入所者70名でスタートし、40年の月日がたつて利用者の平均年齢も60歳とのこと。利用者の高齢化が進む中、農産物販売などで苦勞されているが、

職員は、安定している。職員は、安定している。職員の補充確保が今後の課題と話す。